高校生の視点で「富士宮力」を発信

第2回例会では商店街を歩いて「まちの魅力発見」を

情報発信ファイル

「富士宮高校会議所」

富士宮市内の5高校の生徒たちが連携して、高校生の視点と行動力で地域振興や地方創生・商店街再生・地域ビジネスの手法について実践を通して学び、アイデアを発信している「富士宮高校会議所」は、定期的に例会を開いて、まちづくりや商店街再生に情報交換や協議を重ねている。

先ごろ開いた今年度第2回の例会では、「ぷらっと歩こう!Hang around3776㍍」をテーマに、商店街再生に市の担当者や浅間大社の神官から都市景観や歴史を学び、商店街の散策のフィールドワークで「まちの魅力発見」を行なった。

5月20日に事務局としている西町レトロ館で開いた平成29年度第2回例会で、富士宮市都市整備部都市計画課景観係の植松香織主任主査の解説で「富士宮商店街の景観」について、市が目指している景観構想や課題と現状などについて理解を深めると同時に、距離を測りながら商店街の3776㍍のウオーキングを行い、コース途中の注目場所や休憩場所を確認するなどして、浅間大社と12月23日開館予定でせせらぎ広場に建設が進む世界文化遺産センター(仮称)の進捗状況を目にして「世界遺産のあるまち富士宮」の整備状況を確認して、意見交換も進めた。

続いて、富士山本宮浅間大社神官の甲田吉孝権宮司の「富士山本宮浅間大社と富士宮商店街」の解説では、大社の門前町として歴史を刻んできた旧大宮町に始まる商店街の歴史にも学びを深め、市のALT(外国語教育アシスタント)のAlex・Lipsnさんの「異国人から観た富士宮の良さ」の話でインバウンド観光の可能性についても意識を深め合った。

『「市民力」創出に』

高校会議所は前回の例会で、NPO法人「グラウンドワーク三島」専務理事で都留文科大学特認任教授の渡辺豊博さんを講師に招いて、三島市のまちづくりと社会的ビジネスの経営理念など「地域力」「市民力」創出に学びを深めている。

富士宮市はこのほど「首都圏シティセールス戦略指針」を発表、5月22日の市議会全員協議会で議員らに今後の展開について説明を行なったが、戦略指針の中には、三島大社と『水のまち』として市民参加型まちづくりを進めている三島市が先駆的に行なっている項目に類似した項目も数多く見られ、高校会議所の三島市のまちづくりリーダーを招いた前回の例会が、市の「シティセールス戦略指針」発表前をしたものであったことから、高校会議所の取り組みが市に先駆けるものとなっていた。

渡辺さんは、「社会的ビジネスの創業(まちづくりの実践)」のなかで、「皆さんは現在の行政の公益性サービスや企業の私益的サービスに対して『限界や不安』を感じることはありませんか?」「きめの細かい、親身な『人間的サービス』の提供を、今後、行政や企業が充分に担い続けられることが出来ると考えていますか?」「政治家の言葉の遊びと総論の議論に飽き飽きしていませんか?」「文化・歴史・環境・まちづくりなど、商売とは直接的に関係しない分野での信頼のおける『人的ネットワーク』を持っていますか?」「1人の市民として、ふるさと再生への個人的な『改革プラン』と実現化への『アクションプラン』を持っていますか?」…などの現状把握と問題意識を問いかけて、社会的ビジネスの経営理念やNPO活動の理念と手法、「グラウンドワーク三島」のシステムとプロジェクト実践、水辺の再生、ビオトープづくり、森づくり、商店街でのNPOビジネス、農業生産法人と連携した特産品開発などの推進体制……などについて事例解説を行なった。

高校会議所では、西町商店街の「にしの市」や5月27・28日開催の「商工フェア」への参加・開発試作特産品出展などを行い、まちなかアートギャラリー(市街地中心商店街で夏に開催)での事業参画などで「ビジネス創出」の事業を進めようとしてもいることから、渡辺さんの講話は大いに参考にもなり、続いて開いた第2回例会での「ぷらっと歩こう!Hang around3776㍍」をテーマに、商店街再生に市の担当者や浅間大社の神官から都市景観や歴史を学び、商店街の散策のフィールドワークを行い「まちの魅力発見」に取り組んだ事業は、さらなる高校生の視点と行動力で地域振興や地方創生・商店街再生・地域ビジネス創出の推進の力となるものとなった。

浅間大社を中心に「ぷらっと歩こう!Hang around3776㍍」

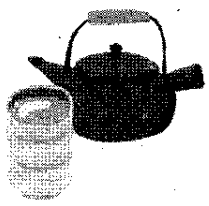
毎月1日は「県民健康の日」特別寄稿

『お茶で、健康長寿』

静岡県富士健康福祉センター
医療健康課　専門主査　平塚歩実

静岡県民の健康寿命は世界トップクラスです。「健康寿命」とは、自立して元気に日常生活を送れる期間のことです。平成27年12月の厚生労働省の発表では、静岡県の女性の健康寿命は75・61歳で全国2位、男性は72・13歳で全国3位でした。世界一、健康寿命が長い日本(WHO発表)の平均より、それぞれ1年から1・5年も長いのです。

本県の健康寿命が長い理由の一つとして、お茶を多く飲んでいることが挙げられています。



お茶は、カテキン等のお茶そのものが持つ健康成分と、お茶を飲むことによって得られるリラックス効果などの両面から、心身の健康を促進させるものとして期待されています。また、誰かと一緒に「お茶」したり食事をしたりして、コミュニケーションを図る「共食(きょうしょく)」も、効果的だと言われています。

県の調査では、健康寿命が長い市町の特徴として、お茶を飲む人が多いことも明らかになっています。「運動」「食生活」「社会参加」の3要素に加えて、「緑茶をよく飲む」ということが、長生きにつながるという結果も出ています。また、1日4杯以上お茶を飲む人満の方の半分になっていました。

実際、県内のお元気な100歳以上の長寿者へのインタビューでは、多くの方が1日に5~10杯のお茶を飲んでいらっしゃいました。

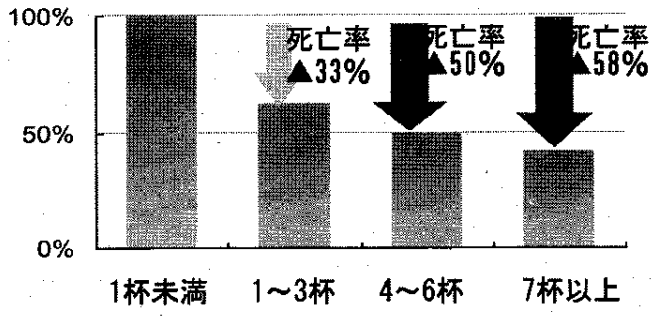
本県は全国一のお茶の産地であり、お茶は本県の文化です。お茶に癒される豊かな食生活が、健康長寿の秘訣と言えそうです。

ところで、平成28年12月、「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例」が施行されました。この条例は、県内の子ども達が小中学校で静岡茶を飲んだり、静岡茶について学んだりする機会を増やすことで、子ども達が静岡茶を愛し、毎日の習慣として静岡茶を飲むようになることを目指しています。学校で、お茶を楽しむことを増やす取組が始まっています。これを機に、ぜひ、家庭や職場等いろいろな場でも、静岡茶を〝愛飲〟しましょう。

富士山と茶畑が揃った美しい景観は、この富士地域の大きな財産です。この景観を守るためにも、お茶を毎日プラス1杯飲み、お茶の良さを子ども達に伝えながら、「茶寿」と呼ばれる108歳まで、元気で長生きしたいですね。

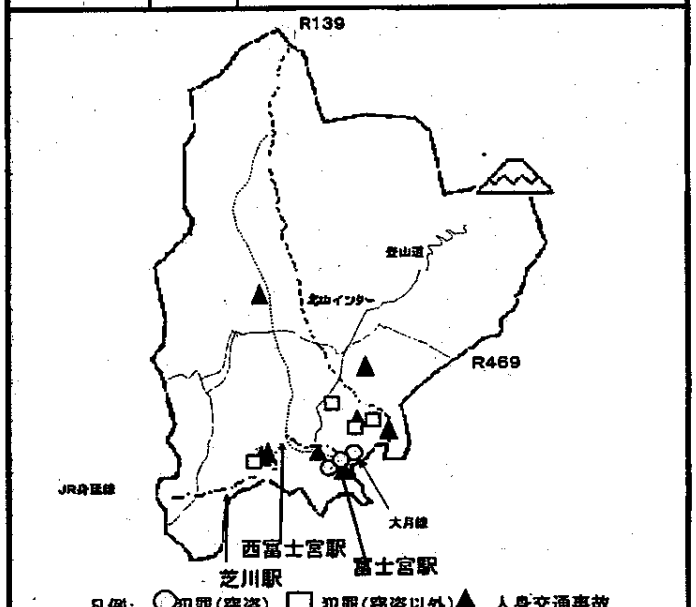
6月は食育月間です。この春から環境が変わった方も、生活リズムが落ち着いてくるこの時期に、毎日の食事を振り返ってみませんか。

◎「緑茶を1日4杯以上飲む人は長生き、死亡率が半分になる」
(静岡県高齢者コホート調査(2009))



5月29日~5月30日の犯罪認知&交通事故発生状況

犯罪認知状況	7件	自転車盗2件、強盗1件、車上ねらい1件、その他犯罪3件
人身交通事故発生状況	8件	出合頭4件、歩行者2件、車両相互1件、左折時1件



富士宮警察署からの一言

自転車盗発生

自宅や学校の敷地内でも施錠を徹底し、2箇所以上、違うタイプの鍵でかけるようにし防犯対策を行いましょう。